

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京都福祉保健財団

2 実施日時

令和元年7月5日(金) 11時00分～11時20分

3 出席者

- ・団体側出席者：杉村理事長、山口事務局長、
池上事業推進担当部長(福祉保健局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長、
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

新生児医療の発展に伴い、命をとりとめたものの障害を持って生まれてくる子供たちが増えており、そのような子供たちも家庭も大変だと思う。

障害分野のニーズが増える中で、どのように対応していくのか。

○杉村理事長

障害者には、様々な形での援護が必要である。

障害者施設等では利用者の高齢化が進み、在宅においても認知症等の方が非常に多くなっており、高齢・障害分野一体としてサービスを提供していかなくてはならない。

お話の障害を持って生まれてくる子供が増えている状況も含め、これからは、都の児童相談所などとの連携も含めできるだけ一体的に取り組んでいかなくてはならないと思っている。

○小池知事

5年後には介護人材が(全国で)30万人以上不足するといわれている中、改正入管法の施行によって、外国人人材がその不足をカバーしてくれることを期待したいが、一方で言葉の壁や生活習慣の違いによって、定着しないという問題も懸念される。外国人人材の育成にどのように取り組んでいくのか。

○杉村理事長

外国人を雇用したいと考えている社会福祉事業者は非常に多い。一方で、そのためにどうしてよいか分からない事業者も非常に多い。今年度は、そういった事業者に対してセミナーや専門相談を行っていく。

○小池知事

後見人制度の問題もあるが、認知症の方が金融資産をどのように保管しているのか分からなくなり、結果として保有資産が凍結してしまうリスクがある。認知症の方の身の回りの財産の整理などを支援してあげることができないか。

○杉村理事長

これからの高齢者対策を考える上で、認知症対策は当然考えなくてはいけない。現時点で、財団が直接、認知症対策という形では事業化していないが、区市町村を通じて情報収集している。将来的に取り組めるような心構えを持っていきたい。

○小池知事

是非、人材育成も含め、現場における様々な課題など、データを蓄積し、貴重な財産として、管理・分析できるような形にしてほしい。

○武市財務局長

入浴や介護など、施設での介護ロボットの導入はどのような状況か。コスト面、技術面で課題はあるか。

○杉村理事長

財団に介護ロボットの展示コーナーなどもあるが、非常に高価なものもあり、普及が著しく進んでいるという状況ではない。ただ、高齢者の施設に対しては、厚生労働省による補助金等の枠組みもできており、かなり関心を持っていただいている。

また、介護ロボットを入れても、職場の合意がないと実際に使われない状況もあるようなので、施設のマネジメントなども併せて民間事業者の方を支援していきたいと考え、取り組んでいる。